

平成 28 年 5 月 15 日(日)

# 茨城新聞に医療支援(パラオ)の記事が掲載されました

## 水戸の眼科病院 NPO

太平洋戦争激戦の地・ペリリュー島のあるパラオ共和国で、水戸市内の眼科病院が運営する NPO 法人が今年 8 月、医療支援活動を行う。防衛省と米軍が行うパシフィック・パートナーシップ事業に公募で選ばれて参

加する。ペリリュー島は水戸市内に拠点を置いた旧陸軍歩兵第 2 連隊が壊滅した地。関わり深い地域であることから、同法人は「これまで以上の医療支援活動を展開したい」と意気込みを見せるとともに、家庭に眠っている中古眼鏡の提供を呼び掛けている。

# パラオで医療支援

パシフィック・パートナーシップ事業は、防衛省と米軍がアジア太平洋地域を艦艇などで訪問し、医療活動や土木事業、文化交流を行う試み。2007年に始まり、今年は6月から東ティモール、ベトナムを巡る。中でも8月5〜15日に訪れるパラオ共和国のコロール島とペリリュー島では日本主導で活動が行われる。

そのため、内科や眼科、歯科を主体とした総合診療を実施しようと、参加団体を募集し、眼科で小沢眼科内科病院の NPO が選ばれた。南太平洋のキリバス共和国で8年前から手術支援を行っている実績が評価されたとみられる。

小沢忠彦院長はじめ医師、看護師ら7人体制で現地に赴く。白内障などの手



ペリリュー島での医療支援が決まり「現地の人の日本への感情を少しでもよくする一端を担いたい」と話す小沢忠彦院長

## 眼鏡寄贈も 中古品の提供呼び掛け

術、診察、眼鏡の寄贈の3本柱の医療活動を行う。

中でも眼鏡寄贈は、キリバスで好評だったこともあり、力を入れている。老眼鏡をはじめ近眼鏡、サングラスなど、「レンズがあまり傷ついていなければ、どんな眼鏡でもいい」というキリバスでは2千個の眼鏡を寄贈したが、パラオでは倍以上の5千個を目標としている。

パラオは昨年4月、天皇皇后両陛下が戦後70年の慰霊慰問をしたことで日本でも注目された。

1万人の守備隊がほぼ全滅した激戦の地だけに、小沢院長は「戦死者の霊を慰めるとともに、現地の人の日本への感情を少しでもよくする一端を担いたい。国に選ばれた団体として重責を感じる」と気持ちを引き締めている。

問い合わせは同病院 ☎ 029(246)2111。  
 中古眼鏡の提供は ☎ 310-0845 水戸市吉沢町223の1 NPO 法人 太平洋眼科医療協力会まで。6月中まで受け付ける。

(武藤秀明)